



会報



DISTRICT 253
CLUB BULLETIN

創立 S34.6.9 承認 S34.6.27

鶴岡ロータリー

THE ROTARY CLUB
OF TSURUOKA

ス キ ー

例会場	鶴岡市馬場町	物産館3階ホール
例会日	毎週火曜日	12:30 - 13:30
事務所	鶴岡市馬場町	商工会議所内
		電話 0235 5775

会 長	上 野 三 郎
幹 事	佐 藤 順 治

全人類を 結びつけるために 奉仕せよ

SERVE TO UNITE MANKIND

W. ジャック・デービス

1977~78 国際ロータリー会長

第 940 号

1978. 1. 10 (火) (雪)

No.27

本日のプログラム

1. 点 鐘
2. 国 歌 斉 唱
3. ロータリーソング (奉仕の理想)
4. ビジター紹介
5. 会員及び奥様誕生祝～親睦活動委員会
6. 年間皆出席表彰～出席委員会
7. 会 長 報 告
8. 幹 事 報 告
9. 会員スピーチ (年男) 津田晋介君、迎田 稔 君
10. 出 席 報 告
11. 点 鐘

■ ビジター紹介

佐藤長蔵君 (家具配布)	酒田東 R. C	}	鶴岡西 R. C
原田行雄君 (遠洋漁業)	半田茂弥君 (石油配布)		
五十嵐卓三君 (仏 教)	笹本森雄君 (ホテル)		
帯谷義雄君 (仏 教)			

■ 会員及び奥様誕生

- <会員誕生> 板垣俊次君、海東与蔵君、西海正一君、吉野勲君、三井健君、
佐藤伊和治君、玉城俊一君、鷺田幸雄君
- <奥様誕生> 五十嵐とし様(三郎)、中野悦子様(重次郎)、谷口美代子様、
津田満理子様

■ 年間皆出席表彰

18年間皆出席	張紹 淵君	
17年間皆出席	三井 徹君	嶺岸光吉君
2年間皆出席	鷺田幸雄君	上野三郎君

■ 会長報告

年頭のご挨拶を申し上げます。みなさまよいお正月をお迎えのことと存じます。

さて昨年も遂に不況の長いトンネルから抜け出ることが出来ずに一年が過ぎてしまい、どうやら今年もあまり大きな期待が出来ないというのが大方の考えのようです。

ご承知のようにロータリーには二つの標語があります。第一標語が「超我の奉仕」、第二標語が「最もよく奉仕するもの最も多く報いられる」です。

この第二の方はロータリーの中でも議論が多く、いつかわが佐藤伊和治会員も例会スピーチで「これはアングロサクソン系の功利説哲学思想で最も次元が低い利益追及居士の言葉である」と痛烈に批判しておられました。しかしこの標語が70年前シカゴの荒廃した商業道徳の中で誠心誠意取引先に奉仕した、真面目な商人だけが不況の中でも強く生き残ったという、事実から生れたものであることを思えば、実業倫理の標語としては、やはり重要なものであろうと考えます。

最近「減量経営」という言葉をよくききます。在庫を減らし、せっせと借金を返し、人も減らす、そうしないと世の中に遅れるような気持ちにさえなります。減量がそんなによいことでしょうか。廃業してしまえば完全減量です。構造的に減量が是非とも必要な業種や企業もあるでしょうが。減量経営が無分別によいことのようにとられることはどうかと考えます。

一つの企業の中でもお客様のニーズに自信をもって応えられる部門には、人も金も物もより多く投資してサービスをより濃いものにしてゆく、遂にその自

信のない部門は思い切って減量してゆくことが大切なのではないでしょうか。つまり減量経営ではなく「選択経営」が重要なんだと考えます。

今、人は余っている、物は安い、金利も安いこんな好条件の時期は減多にないでしょう。企業の中で選択せずに一律に減量することとはお客様へのサービスの濃度を薄めてしまうおそれがあります。サービスを薄めてはその報酬も薄まることは、先程の第二標語に明きらかです。

新春放談で勝手なことを云いましたが、年頭の所感を述べて新年のご挨拶にかえさせていただきます。

■ 幹事報告

(1) 例会日、場所時間の変更

(一) 酒田東R.C 1月12日(木)の当クラブの例会は酒田R.Cとの合同例会のため次のように変更

と き 1月14日(土) P.M 1:00 ところ 天真学園高等学校講堂

(二) 山形R.C

(イ) 1月18日(水)の例会は新年会のため次のように変更

と き 1月18日(水) P.M 5:00 ところ 例会場

(ロ) 1月25日(水)の例会はクラブフォーラムのため次のように変更

と き 1月27日(金) P.M 6:00

(2) 会報到着

(一) 石巻東R.C (二) 石巻R.C (三) 酒田R.C (四) 米沢西R.C

(五) 朝日R.C (六) 米沢R.C

(3) 年賀状到着

(一) 第253地区ガバナー 加藤武久君

(二) 第253地区ガバナーノミネー 黒沢 茂君

(三) 温海R.C (四) 本間利雄君

■ 会員のスピーチ(年男)

馬の話あれこれ

津田晋介君

1. 馬程人間と関係の深い動物は他にない。若し馬がいなかったら、人間の歴史は変っていたであろう。具体的に述べれば、ジンギスカンの欧亜にまたがる大帝国の建設も蒙古民族が馬を使用したから可能だったのであり、ナポレオンのイタリア征服も、馬を使用して初めて冬のアルプスを越えることが出来たのである。

日本の歴史でも、源平の戦いで源氏が勝利し、鎌倉幕府が出来たのも、騎馬戦を得意とする関東武士が馬を利用したからであり、又織田信長が桶狭間の戦いで今川義元の軍を破り近世の端緒を開いたのも馬を利用して奇襲作戦をしたからに外ならない。此のように人間の歴史は、実は人と馬との協同によって作られたものである。

2. しかしその馬も最近では減多に見られなくなってしまったが、乗馬の楽しさは言葉で云い表わせないものである。乗馬の楽しみを味わずに一生を終えたとし

たら、その人の生涯は寂しいものといわねばならない。

斯く云う私が初めて馬に乗ったのは、昭和15年6月弘前市の野砲第8連隊であった。初めて馬の背に跨った瞬間は、殿様にでもなったような気持で、何故もっと早く乗らなかったのかと後悔した程である。

しかし一旦走り出したら、身体が馬上から1尺もはね上がり、落馬せんばかりになったので、馬の頸にしがみついたら突然馬が駈歩し、猛烈な勢で進むので、我が命もこれまでかと思観念したことがあった。

3. 馬には、いろいろ癖のあるものがあるが、立ち上る癖のある場合が最も危険である。若し立ち上ったままにしていれば、馬は自分でどうすることも出来ず、後ろにひっくり返ってしまうので、そのようなときは絆を左右どちらかに開くことが必要である。
4. 昔、徳川三代将軍家光の時代、曲垣平九郎が家光の命令で芝の愛宕山の高い石段を馬で上って桜の枝を折って献上し、日本人の名人として賞讃されたことがあったが、当時の日本の貧弱な馬であれだけのことをやれたのは素晴らしいことで、現在の改良された馬に乗れば、格別むずかしいことではない。それだけ馬が改良されているのであるから、我々は乗馬の楽しみをもっと味うべきである。

■ 会員スピーチ

新 春 放 談

迎 田 稔 君

石器時代の人間の平均寿命は20才以下だったらしい。明治33年の日本人の平均寿命は男44才、女45才、それが今では男72才、女74才の由。4度目の年男を迎えた位では未だ先の長さを心配しなければならない訳で、新年を迎えて特に何をしようと言う程の抱負はありませんが、先日せがれどもから自分の教師たちに比べて我が家の親父は髪も白く背中も曲りかけて、なんとなく年寄りじみていると云われていささか愕然としました。今年は酒をつつしみ、ゴルフや縄とびにも精を出し健康管理に留意しながら、スポーツにも仕事にも午年らしく馬力をかけたものと考えています。

もう一つは交換学生の手・ブレントン君のことです。15日の朝羽田に着きます。私が迎えに行き連れてきますが、辞書を片手に英語がどこまで通用するものか、私の3人の息子たちとどの様な交流になるのかクラブの皆様宜しく御協力の程お願いします。

■ 出席報告

本出 日の席	会 員 数	69名	欠 席 者	石黒君、五十嵐(三)君、石倉君、西海君、斎藤(栄)君、佐藤(伊)君、佐藤(友)君、佐藤(正)君、笹原君
	出 席 数	60名		
	出 席 率	86.96%		
前出 回の席	前回出席率	88.57%	メ ア ー ク ブ	風間君、高橋(耕)君、佐藤(衛)君、佐藤(友)君一
	修正出席数	66名		
	確定出席率	94.29%		